

# 集落ぐるみでの金網柵設置によるイノシシ等被害防止対策 ー群馬県 上間仁田・黒岩地区ー

- 群馬県のソフト事業である「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を活用し、農業事務所の普及指導課が中心となり、所属組織(市町村、生産部会)が異なり、対策の考え方も違う農業者や地区住民をまとめ、共同で効果的な対策を実施。
- 勉強会、集落環境調査、先進事例視察など行い、金網柵設置や耕作放棄地整備などの対策を共同で実施。

## 上間仁田・黒岩地区の課題

- イノシシ等による農業被害が頻発
  - ・主に土壌消毒被覆材の破損
  - ・こんにやく生子、ネギの掘り起こし等



【こんにやくの生子】 【被覆資材の踏み抜き跡】

- 生産者の意識や考え方に差がある
  - ・ほ場が安中市と富岡市にまたがる
  - ・入耕作が多く所属組織が異なる

共同で効果的な対策を進めたい

- 普及指導課を中心とした支援体制を確立し、勉強会として活動

こんにやく農家主体とする生産者  
地区住民

支援センター  
鳥獣被害対策

西部農業事務所  
普及指導課

JA  
関係市町村

## 主な対策

- 状況把握のため集落環境調査の実施

集落の野生動物に対する弱点を把握。住民間で共通認識を持つため、動物の痕跡、隠れ場、誘引物等を調査。集落環境マップを作成し、対策を検討。



【集落環境マップ】

- 耕作放棄地及び緩衝帯の整備

獣の隠れ家となる耕作放棄地や、緩衝帯として周囲の竹林等を整備。



【整備前】



【整備後】

- 先進事例調査

自力施工による金網柵設置及び住民自身による継続的な維持管理を実施している地区への視察⇒**管理体制の構築が重要**



【視察】

- 林縁部に侵入防止柵を設置し管理体制を構築  
交付金事業を利用して金網柵を自力施工により設置し、柵及び耕作放棄地等の自主管理組織を設立。



【金網柵設置】



28年 1月設置  
28年 10月設置  
29年 1月設置

## 対策の効果

- 農作物被害はほとんどなくなった。
  - ・金網柵設置後には、以前はほ場回りに設置していた電気柵がほぼ不要となった。
  - ・耕作放棄地を自発的に整備する人が増えるなど住民等の意識が高まった。

- 生産者及び地区住民の声

金網柵を設置してからは、電気柵が不要となり楽になった。

みんなの獣害に対する意識が高まって、自発的に藪払いや作物残渣の処理をする人が増えた。



# 集落ぐるみでの金網柵設置によるイノシシ等被害防止対策 一群馬県 上間仁田・黒岩地区一

## ◆誰がどのように

農業事務所普及指導員が中心となり、鳥獣被害対策支援センター、市、JAが連携して支援する体制を構築。

## ◆どこで何を勉強してよいかわからない…

支援体制のメンバーである鳥獣被害対策支援センターに相談。勉強会での講話や視察のための先進地を紹介してもらう。

## ◆よく知っているはずの自らのほ場周辺を踏査

ほぼ毎日歩いたり、見ているはずのほ場周辺について、「踏査」することの意義を勉強会で説明し、多くの参加者が集まった。

## きっかけ

- ・イノシシ等による土壌消毒被覆材の踏み抜き、こんにやく生子やネギの掘り起こしが頻発。
- ・獣が出没する南側林地の林縁部に、柵を設置するための補助事業について農業事務所に相談。

### Step1 (H27) 支援体制の構築

- 所属組織が異なる生産者や地区住民による勉強会として活動。
- 県ソフト事業である「集落づくり支援事業」を利用し、総合的な対策を実施。

### Step2 (H27～) 地域の合意形成

- 集落ぐるみでの獣害対策について鳥獣被害対策支援センターが説明。
- 意見交換を行い、今後の活動の方向性を協議し、その中心となる推進委員を生産者から4名選定。

### Step3 (H27～) 集落環境調査

- 野生動物に対する集落の弱点を把握。住民間で共通認識を持つため、動物の痕跡、隠れ場、誘引物等を調査。集落環境マップを作成し、対策を検討。

行政側の人間も一緒に汗を流して、作業を行うことによって、行政に対する信頼感が深まる。

普及指導員と役員が中心となり、柵設置の承諾を得るために地権者を個別訪問するが、一部の地権者の同意が得られずにこずる。

### Step4 (H27～) 耕作放棄地及び緩衝帯の整備

- 耕作放棄地整備：地区のほぼ中央に位置する約1haの放棄地を約30名で解消。耕作者以外の非農家の地域住民も参加し、草刈り機、フレールモア、チェーンソー等の道具を持ち寄って実施。
- 緩衝帯整備：柵設置ラインの際等に緩衝帯を設置するため、竹林伐採や藪の刈り払いを共同で実施。

### Step5 (H27～) 金網柵設置の準備

- 先進事例調査：自力施工による金網柵設置及び住民による継続的な維持管理を実施している地区の視察。
- 設置ライン上の整備：金網柵及びその管理道を設置するため、柵設置ライン上の藪の刈り払いを共同で実施。

## 取組に当たっての秘訣

- 中心となって取り組める人が何人かいると、活動が継続するとともに、困難に対しても突破口が見いだされて前に進みやすくなる。
- 勉強会には参加しなくても、共同作業には参加する人が多いので、集落や生産者のつながりを活かすようにする。

## 将来に向けて

- 集落北側の林地からも野生動物の出没がみられるため、柵の設置等の侵入防止対策を行う。
- 多面的機能支払交付金など補助金を利用し柵の管理や環境整備などの活動資金とする。

### Step7 (H29～)

#### 金網柵自主管理組織の設立

- これまでは行政の主導で共同作業を行っていたが、今後は住民主導で行ってもらうため、事業最終年度の30年3月に、金網柵自主管理組織を設立。
- 生産者や住民のうち6名が推進委員となり、共同管理作業の日程などを決定し、住民等に連絡。

取組を経て…

### Step6 (H27～28) 金網柵の設置

- 交付金事業等を活用し、ロール式金網柵を、農閑期に自力施工により設置。
- |      |           |      |      |
|------|-----------|------|------|
| H28年 | 1月7、8日    | 240m | 約20名 |
| H28年 | 10月14、15日 | 500m | 約20名 |
| H29年 | 1月10、11日  | 600m | 約15名 |